

土門拳写真展 昭和の風

四季の杜 おしの公園 岡田紅陽写真美術館

展覧会名 「土門拳写真展 昭和の風」

会 場 岡田紅陽写真美術館 企画展示ホール

会 期 2008年7月23日(水)～9月1日(月)

休 館 日 7月・8月は無休

開館時間 午前9時～午後5時(最終入館4時30分)

観 覧 料 一般300円、小・中学生200円、未就学児は無料

主 催 忍野村教育委員会(岡田紅陽写真美術館・小池邦夫絵手紙美術館)

後 援 山梨県、山梨日日新聞社・山梨放送、NHK甲府放送局

監 修 藤森 武(写真家・土門拳記念館理事)



[お問合せ]

四季の杜 おしの公園 岡田紅陽写真美術館(担当：学芸員・一瀬)

〒401-0511 山梨県南都留郡忍野村忍草 2838-1

TEL.0555-84-3222 FAX.0555-84-3320

〈URL〉<http://www15.ocn.ne.jp/~o-k.muse/>

土門拳写真展 昭和の風

【企画展開催にあたって】

昨今、映像や写真を含め「昭和」という時代への注目が集まっています。

団塊の世代やシニア世代の多くが「昭和」という時代を懐かしみ、映像や写真の中にかつて自分たちが青少年期をすごした時を投影し、また若い世代の人々は現在では見ることのできないあたたかな風情や空気を新鮮なものとしてとらえているようです。

本企画展で扱う“土門拳”は写真家の中でも自らが生きた「昭和」という時代にこだわり、そして独特な視点でその瞬間を切り取り、撮影し続けた作家といえます。その作品の多くは「昭和」のイメージを象徴するものが多く、作品を通して私たちは時代を体験することができます。

本展は、山形県酒田市・(財)土門拳記念館のご協力をいただき、同館が所蔵している約7万点の作品の中から、約80点を選び、4つのテーマに分類し展示するものです。

土門拳写真展 昭和の風

【展示内容について】

■風貌

土門拳は戦前から戦後にかけて数多くの肖像写真を撮影した。被写体は土門自身が尊敬する人、好きな人、親しい人、文化人、財界人、芸能人など分野やジャンルは様々であった。

その作品は印象的なものが多く、被写体が普段は見せない一瞬をとらえている。画家・梅原龍三郎を撮影する際に撮影を執拗に続け、怒らせてしまったという逸話は有名である。肖像写真の作品群の中から16点の作品を展示する。



梅原龍三郎 1941年

■こどもたち

昭和20年代後半から昭和30年代初頭にかけて、土門拳は精力的にこどもたちの撮影を行った。

日本全体が貧しく、しかしたくましく生きていた時代。そんな時代に生き生きと遊ぶこどもたちを土門は愛し撮影した。



しんこ細工 1954年

■筑豊のこどもたち



るみえちゃん 1959年

昭和34年から土門拳は炭鉱の閉山がもたらした、福岡・筑豊の悲惨な状況を伝えるため撮影を行った。閉山により職を失い、貧困にあえぐ人々、そしてそのこどもたちを写し、翌年にはザラ紙に印刷した『筑豊のこどもたち』（パトリシア書店）を出版した。ポタ拾いをするこども、学校に弁当を持ってこれずに弁当の時間にじっと下を向き絵本を見るこども——その姿はこどもたちの明と暗をはっきりと映し出している。

この2つのテーマの中から、46点の作品を展示する。

■古寺巡礼

土門拳がライフワークとしていた古寺の撮影。脳出血で倒れたのちも、不自由な身体にもかかわらず、弟子たちの助けをかりながら撮影を続けた。土門は「ぼくにとって『古寺巡礼』の撮影はなまやさしいものではなかった。（中略）撮影にかかると、どうしても緊張し、興奮する。それなのに次々と撮りたいものが眼に入って撮影が長びく。宿に帰りつくと、物を食う気力さえなくなって、ぐったりと疲れてしまうのである」と語っている。心血を注ぎ撮影した作品は見るものを圧倒する。

今回は『古寺巡礼』（美術出版社）より代表的な作品15点を展示する。



室生寺弥勒堂 釈迦如来坐像左半面相 年代不明

土門拳写真展 昭和の風

土門 拳 略歴 (1909 - 1990)

- 明治 42(1909)年 山形県飽海郡酒田町(現・酒田市)に生まれる。
- 昭和 10(1935)年 名取洋之助主催の日本工房に入社、報道写真を撮り始める。
- 昭和 15(1940)年 鉄道省国際観光局の映画撮影に便乗し、京都太秦広隆寺、奈良中宮寺を訪れ初めて撮影する。
- 昭和 25(1950)年 雑誌『カメラ』の月例写真審査委員になりアマチュア写真家を指導して、「リアリズム」を提唱する。
- 昭和 28(1953)年 『風貌』(美術出版社)刊行。
- 昭和 29(1954)年 『室生寺』(美術出版社)刊行。
- 昭和 33(1958)年 『ヒロシマ』(研光社)刊行、これに対し第4回毎日写真賞、第2回写真批評家協会作家賞受賞。
- 昭和 35(1960)年 『筑豊のこどもたち』(パトリシア書店)刊行、10万部を販売し大きな反響を呼ぶ。この年の2月脳出血のため東京警察病院に入院する
- 昭和 38(1963)年 『古寺巡礼』(美術出版社)第1集刊行開始。(昭和50年第5集で完結)
- 昭和 43(1968)年 2度目の脳出血で倒れ、入院する。
- 昭和 48(1973)年 紫綬褒章受章。
- 昭和 49(1974)年 『古寺巡礼』(美術出版社)第5集刊行のため車椅子で撮影開始。山形県酒田市名誉市民第一号となる。
- 昭和 54(1979)年 脳血栓で倒れ、東京・虎ノ門病院に入院。以後11年間意識不明の状態が続く。
- 昭和 55(1980)年 勲四等旭日小授章を授章。
- 昭和 58(1983)年 土門拳記念館開館、『土門拳全集』(小学館)全13巻刊行開始(昭和60年完結)。
- 平成 2(1990)年 9月15日意識が戻らぬまま、入院先の虎ノ門病院で心不全のため死去。享年80歳。



撮影：藤森 武